

唐崎の皆さん、こんにちは。と同時に、ただいまと言いたい気持ちで一杯です。

26年ぶりに、滋賀県に帰ってきました。大塚司教様から滋賀ブロックへの異動が発表された時に、なかなか信じられませんでした。本当に、こんな大きな恵みをいただけるのでしょうか？

30年前に司祭経験のない私を温かくて迎え入れて、育ててくれたのは唐崎教会共同体に在した皆さんでした。迷惑をたくさんかけたな！と後からわかりましたが、皆さんがよく我慢して、若い司祭だった私を支え、見守って下さいました。

唐崎教会の後にしばらく仙台教区に居てから、21年間メキシコにあるグアダルペ会の総本部で仕事をさせていただきました。最初は、日本にすぐ帰りたい、小教区で宣教司牧に尽くしたいとワガママばかりを口にしていましたが、少しずつ新しい発見をしました。私がやりたくないことをしていたように、周りの方々の辛い仕事や嫌なことを我慢しながら、毎日生活をしていました。

家族や子どもに食べ物、衣類、薬など、生活に必要なものを欠かさないために、皆は好きなことだけをやって生きているのではない。逆に、多くの場合は、苦勞して、自分を犠牲にして辛いことでも耐えながら、一生懸命に働いて、お金を稼いでいる。その上、我が家族、我が子のために、何年間もそんな生き方を続けているのです。そこで、このように考え始めました。

やりたくない仕事を任せられた私は、他の多くの人と何の違いもありません。私もその方々のように「誰かのために」味わっている苦勞をささげることができたら・・・そして、「グアダルペ会の使命のために」、つまり会に与えられている福音宣教の使命が実現されるように、私の働きを捧げましようと思えるようになりました。

それは、日本の福音宣教にも何らかの形で役に立つであろうと考え始めたわけです。それでも21年間の働きを好きになれたとは言えませんが、確かに「逃げ出したい気持ち」は、抑えられました。神様はワガママな私を、成長させたかったのでしょうか？

でも、やはりいつか日本に帰って、直接に宣教したいという望みが消えていなかったのです。神様の摂理の中で、去年にそれがかなえられて滋賀ブロックに任命されたという次第です。弱い人間を通して、その業を成し遂げる神様が時間をかけて「ぶどう畑」の労働者を育成されるのです。これまでの自分の経験からそのような確信を持っています。

皆さん、どうですか。神様の導きを自分の人生の出来事の内、見いだすことができるでしょうか。我が子を育てる父親のように、神様の優しい手を感じるのでしょうか。

エミリオ・フオルトゥール神父

Back to the
1997 (^ ^)!

